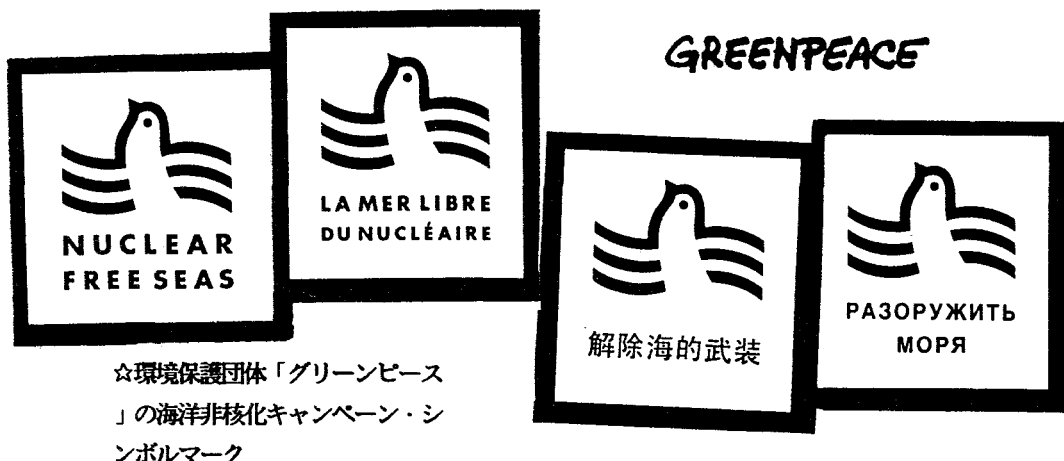


反トマホーク通信

No. 22
87. 8. 20
定価 100円

東京都渋谷区渋谷2-5-9 バル青山502 トマ喰い虫社 ☎ 03(498)6095



☆環境保護団体「グリーンピース」の海洋非核化キャンペーン・シンボルマーク

★新刊パンフレット★

反核運動におけるふたつの鍵

非核自治体と核艦船寄港

共同執筆

梅林宏道
Umebayashi Hiromichi

鏡 豊
Kagami Yutaka

新倉裕史
Niikura Hiroshi

湯浅一郎
Yuasa Ichiro

本当の非核を願う市民の書!

内容:

戦艦ニュージャージーなどの寄港と自治体/非核自治体の可能性
/明日へのヒント/資料多数 etc

■頒価 600円 (10部以上 480円)

トマホークの配備を許すな! 全国運動

●維持会員 (月間会費)

団体 1口 2000円
個人 1口 1000円

●参加会員 (月間会費)

団体 1口 1000円
個人 1口 500円

●通信会員

年間 2000円

あなたも仲間に

インタビュー

「東芝事件」は新たな軍拡の ステッピング・ストーンだ

増田 裕 (国家秘密法に反対する
市民ネットワーク)

——三月からこのかた「東芝機械ココム違反事件」が大きな政治問題となっている。反核平和運動、とくに海の核軍拡に反対する運動にとってこの一連の事態の持つ意味を考えてみたい。

まず、アメリカは輸出された工作機械によってソ連の原潜の騒音が二十分の一に減少したと主張しているがその因果関係は？

因果関係は全くないというのが私の結論だ。原潜の出す騒音には大きく分けて三種類ある。艦体の水切り音、タービンやポンプなどの艦内音、そしてスクリュウ音。ソ連の原潜では前二者の対策がかなり進んでいて、騒音の低減化の中でスクリュウ音の占める比重は小さい。スクリュウ音の中で一番の問題は「キャビテーション・ノイズ」と呼ばれるプロペラの通った後に発生する気泡の破裂音だ。これは低周波で水中を伝達しやすい。このノイズを低減させるにはプロペラの形や、回転数を工夫する。要するに設計が問題になる。東芝機械が輸出した工作機械や機械の作動ソフトだけがあってもどうしようもない。時期的な問題もある。ペンタゴンのレポート「ソ連の軍事力」(八五年版)には八三年に進水したもののから騒音がとりわけ低くなった、と書かれているが、東芝の九軸制御工作機がバルチック造船所に据付けられたのは八三年の八月と十二月で間に合うはずがない。またバルチック造船所では一九四九年以降潜水艦は一隻も作っていない。

——因果関係が非常に薄いとなると「東芝叩き」の本当の狙いは何かということになるが……

そもそも、最近アメリカは対共産圏輸出規制解除の方向に向かっていた。この一月にはソ連向け天然ガス掘削機械の禁輸を解除した。また議会への諮問機関である全米科学アカデミーがアメリカのハイテク産業が市場を失い衰退することを理由に輸出統制緩和を提言し、それを受けてレーガン大統領の一般教書演説、ボルドリッジ商務長官の規制緩和方針の発表と続いた。

この動きに反して抵抗し妨害してきたのがペンタゴンだった。産業・科学に対する軍事的統制を強めようとしてきたペンタゴンは孤立した。「東芝機械」は彼等が巻返しの材料として使った要素が非常に大きい。「事件」が日本の新聞で報道されたのは三月三日だがそれはペンタゴンが「統一教会」系の「ワシントン・タイムズ」に情報リークして記事になったのがきっかけだった。当初、日本のココム関連の所管官庁である通産省の見解は「ペンタゴンの対日強硬派の意図的な行為であり遺憾」というものだった。これに対して四月の末にワインバーガー国防長官が栗原防衛庁長官に書簡を送り、問題が一挙に顕在化した。防衛庁はココム所管官庁ではなく異常な外交ルートというほかない。そして、警視庁による東芝機械の強制捜査、アメリカ議会では四月三十日に対東芝制裁法案(ハンター法案)が出される。すべて、ペンタゴンと議会の対ソ強硬派の筋書きどおりにことは運んだ。

——INF(中距離核戦力)の全廃の方向へと核軍縮交渉が煮詰まろうとしている一方で、核対決は海洋へと移行しつつある。今回の事件が「原潜探知能力」に関わるものであることの意味は非常に大きいと思う。事実、来日したワインバーガー国防長官は「東芝」を盾にとって対潜能力の向上を迫った。日本の産業界に対するこの圧力は今後ますます強められるだろう。

その通りだ。ここで思い出してよいのは八一年から八二年にかけてヨーロッパでおこった「ココム問題」だ。シベリアの天然ガスパイプライン計画に対して、ヨーロッパ諸国はエネルギーの安定供給の見地から輸出に際する動きをとったが、レーガン大統領はこれに猛烈な圧力をかけた。この時、ヨーロッパではバーシングII、巡航ミサイルの配備をめぐる反核運動が燃え上がっていた。各国の首脳部にも動揺があった。新たな軍拡を目論むときに「ココム問題」をいわば謀略的に持出すやり口は共通しているといつてよいだろう。

今回のペンタゴン強硬派の動きは歴史的にみれば逆流、少数派といえるだろう。しかし、一見、リベラルで穏健な主張の中にこそ本物の怖さがあるのではないか。たとえば「ニューヨーク・タイムズ」の社説は「そのような破壊的な対応ではなく、もっと建設的な対応が必要である」と言っている。建設的な対応とは「より実質的な同盟関係の強化である」と。つまり「安保強化」だ。これはより高度なハイテク共同覇権体制、ハイテクによって

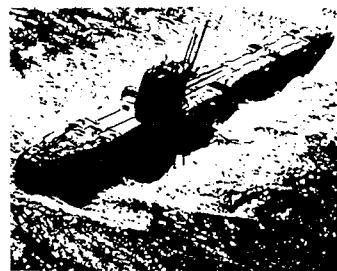
支えられたよりいっそうの軍事一体化につながるだろう。日本の軍拡のステッピング・ストーンに「東芝事件」は最大限利用されるだろう。これが平和運動にとって最も重要だ。

——日本では外国為替管理法を改正して「安保条項」を導入しようとしている。産業活動に対する軍事的見地からのチェックが強化されようとしている。いわば「国家秘密法」の先取りというべきもので非常に恐ろしい気がするが。

外為法改正案には「安保条項」に加えて六省庁による関係閣僚会議の設置が盛り込まれている。そこには警察庁と防衛庁が含まれている。コクムの規制品目には三つのカテゴリーがある。それは武器関係、原子力関係、そして汎用技術(民生技術)。今ココム規制で最大の焦点になっているのが最後の汎用技術なのだ。それらを軍や警察が統制しようというのだから大変なことだ。日本の野放図な産業発展をよしとするわけではないが、軍事優先の路線がアメリカの産業にもたらした悲劇をわれわれは学ばなければならないのではないか。

ともあれ、この「事件」の意味をわれわれはもっとよく知り、強く人々にアピールする必要があるだろう。有効な反響のてだてを一緒に考えていきたい。

(聞き手・文責 田巻一彦)



核艦船を止めるあの手の手(下)

新倉裕史(非核市民宣言運動ヨコスカ)

本多裁判
入港差し止めを司法の力で

これは横須賀の本多さんという人が飛鳥田さんを弁護団長にしておこした訴訟です。核を積んでいる、あるいは積んでいると判断される艦船の入港を認めるなというのを司法に訴えて、司法の力によってその艦船の入港を食止めるということを訴えたわけです。

この裁判で使われている根拠は、勿論、非核三原則とか憲法とか色々あるのですけれども、一番一生懸命弁護士の人達が勉強して、これで行けるのではないかとしたのは、「領海条約」というものです。外国軍がある国の沿岸を通過する場合に、その軍艦が沿岸国の

規制を守らない、あるいは無視した場合にはその軍艦に領海からの退去を要求することが出来る、という国際条約です。無害通行が証明されなければ領海から立去れと要求することが出来る権限を沿岸国は持っている。何年か前にソ連の原潜が沖縄の周辺で火災を起こしたことがあります。この時日本政府は核兵器を積んでいると判断して無害通行とは認められないから即刻退去するようにということをやったのです。それはきちんと文書にもなっているわけです。

ソ連の原潜に対して中にはいつて調べたわけでもなく、しかし核搭載である、無害通行とは認められないから領海から立去れということをやったんだとすれば、アメリカ軍に対してしても同じようなことを出来るはずだというのがこの裁判の一番の主旨です。状況証拠的に見れば非核三原則はもう破綻しているわけで、国民を説得することは出来ていない。だからもし、中に入って立入り調査をすることが無理であるとすれば積んでいないとい

う証明書の提出を求める、ということまで言うて裁判をやっているわけです。

国は原告適格を欠く、つまり訴えの利益がないと退けようとしています。たとえば、領海条約についていえば、「撤退要求によってもたらされる公共の利益は主権国家が国際法上有する国家的利益であり、個々の国民の個別的・具体的利益ではない。だから、国家的利益が守られた結果として不特定の国民が何らかの利益を得ることはありえようが、個々の利益は反射的あるいは事実上の利益にすぎず、行政訴訟の提起が許されるべき法律上の利益とは言えない。だから法律上の利益を持つていない個人が領海条約をたてにして裁判を起こすことは出来ない」といっています。

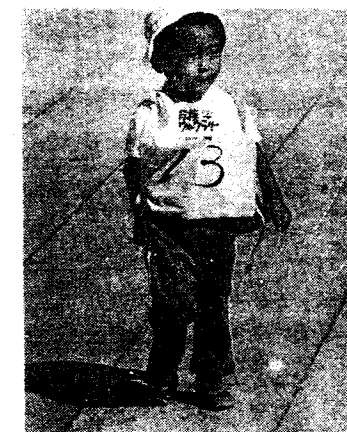
非核三原則についても同じですね。「非核三原則も重要かつ基本的な政策としての抽象性を有する政治上の指針であり裁判上の救済が得られるべき現実的、個別的な内容を持つものとして具体化されているものではない」。かなり面白い、注目されなくてはならないやりとりがこの裁判では行われているのです。弁護士の人達はやることに意義がある、少なくとも門前払いされないで核艦船入港の問題が、裁判所で防衛庁との間でやりとりがされている事実がとても重要だ、だからともかく長引かせて色々な問題を引出そうとやってい

る裁判です。

「本多裁判」というのですけれども、非常に真面目な(後のが不真面目というわけではないですけど)あの手の手の一つです。

一人デモ
歩くことは簡単だ
誰でも出来る

これは、ぼくらが言うと、またボラが始まったと言われるんですけども、決してぼくらが言っているのではない。ぼくらみたいに基地にべったり張り付いてきたグループからではなくて、このトマホーク以降の反核草の根運動の中から現れてきた「神奈川非核交流会」というグループの人達が署名運動とかいろんな草の根的な手法を繰返してやってきたあとにある例会で、やはり基地にいかねばだめだと結論したんですね。横須賀で毎月デモをやっているという話だから、とにかくこのデモに会として毎月参加しよう、と。大体平均三名から四名の人達が毎月参加するようになって、間もなく一年になります。



手この手をやっているようだけれども、一番簡単なのは毎月横須賀に一万人居まってしまふことではないか」という風にその会の代表の人が言い出したんですね。もう一回、毎月横須賀の基地に向かって「ノー」という人々が繰返し集まるということを決して単なるボラではなくて、運動としてやろうではないかと。

そのグループは川崎とか横浜とかが運動の中心なんですけれど、わりと遠い所の草の根の人達から出てきたというのもこの間の神奈川の反核運動のひとつの到達点ではないかという気がします。その人は、あちこちの会議で必ず横須賀のデモに行こうって言うんですね。とにかく、デモは簡単だ、と。ただ歩くだけだから、誰でも出来ることだ、と力説しています。

平和船団

お日
百隻の
船が...

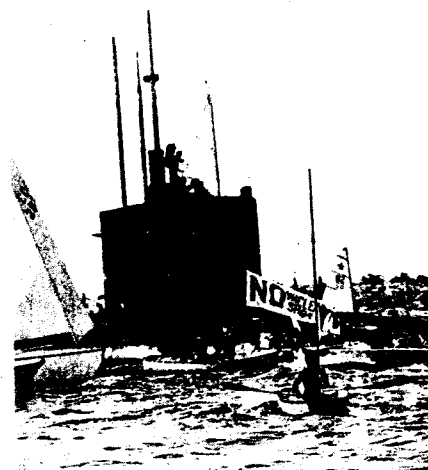
横須賀の仲間で、何年か前にニュージーランド、オーストラリアに反核の旅をしてきて、そこでえらく刺激をされた鈴木シゲキという(笑い)男がいるのですけれど、彼がこつこつと横須賀でも平和船団をやろうと準備をしてきました。

横須賀の平和船団は全三隻です。二隻がゴムボートで一隻がエンジン付きの船です。鈴木シゲキさんという人は新品を買わないというこで有名な人で(笑い)、エンジンも止まっている事のほうが多いんですね。この間もコモン・デイトの時に横須賀に集まった首都圏の仲間们に展示演習をして、こうやれば船は止められるのだということで、大きな原潜のぬいぐるみを風船を入れて作って三隻で引張ったんです。ところが、原潜の模型の方が風に煽られて逆に引張られて(笑い)、ちょうど風向きが良くて基地の方にどんどん流されていくんですね(笑い)。その流れつく先

がちょうど自衛隊の潜水艦が三隻ばかり泊ま
っている所で、一生懸命漕ぐんですけれど
(笑い) ジリジリ基地の方に向かっていく。
で、自衛隊は驚くのは当り前で(笑い)……何
だか得体の知れないぬいぐるみに引かれたボ
ートが(笑い) 近寄ろうとしているんだか、
離れようとしているんだか(笑い)、しかし
結果的にはほとんど近付いていくんですから
……やばい、というんで警戒体制風に自衛官が
並んで、偉そうなのがトラメガまで持ってき
て(笑い)、さあ何時でもこいと構えた瞬間
に風向きが変わって、やっとなんか戻って
来ました。今でも僕はわざとやったのではな
いかと思っているんですけど(笑い)。
そういう本当に船を止めたいという思いを
具体的な行為として表現する事を追及するの
は必要だろうと思います。たまたま僕は基
地のそばに住んでいるという恵まれた環境に
有りますから、それを使わない手はない。
勿論これまでも海上行動というのは繰返し
やってきたんですが、これまでのそれとはや
や違うものを作ろうと考えています。という
のは、海上行動に参加された方は分ると思う
のですけれど、空しさだけが残ると思うか、
近付けるように近付けない、靴の上から水虫
を掻くような感じがあって、二三回繰返すと
もう船に乗りたくなくなる。

で、僕達の船団長……ストロングシゲキと
(笑い) 呼んでるんですけど……はあえて「海
上行動」と言わずに「平和船団」と言うんで
すね。それは、非暴力直接行動というものの
展開をかなり真剣にやってみたい。どの程度
出来るのか、ということ、チャーター船で
はなく自前の船でどこまで出来るのかをやっ
てみたいということです。また、止められる
か止められないかという所だけに関心が行く
のではないありかたも大切だと言うのです。
だから、限り無く「予行演習」しかやらない、
ぶつからない平和船団というのがあっても良
い。というのは、僕らの回りでは船を持って
いる人はそう沢山いなくて、きちっとした船
を持っているのは大体お金持ちの人なんです
けど、そういう人達が参加するということ
まで考えれば、いきなり「海戦」だなんてこ
とになると、デモに来て下さいということさ
えなかなか言えないし、来ない状況の中でロ
ーの払い終わっていない船が壊されるかも
しれないし(笑い)、海上保安庁に船を没収
されるかもしれないというのでは船はなか
か集まらないと思う。だから、とりあえずは
予行演習ばかりやる。ある日曜日横須賀の
港を百隻の船がぐるぐる回る、その気になれ
ばこれだけの力は有るんだよということを、
半分楽しみながらやろうと考えています。

もちろん日常活動としては、そういうデモン
ストレーションだけではなくて、現にやって
いることですが、基地の写真撮影にいった
り、海外からお客さんが来れば基地を案内し
たりする。それから調査船というのを今作ろ
うとしているんですね、原潜が停泊している
所のヘド口を採取して分析する、あるいは原
潜の二次冷却水をぎりぎりのところまでいっ
て採取する。
今ある中古のエンジンが何かやるときに必
ずとまってしまうというアクシデントばかり
起こしているんで、始めは三百万位お金を集
めて船を買おうと話していたんですけど、と
にかく十萬円でエンジンを買おうということ
になって、今二万円あつまっています。ぜひ関
心のあるかたは御協力下さい。



中国地方の反核・反基地運動(下)

四六 核艦船拒否をこの町で

湯浅一郎(トマホークの配備を許さぬ市民の会)

現在呉には海上自衛隊の基地と米陸軍の第
八三弾薬廠があります。基地は七八年のガイ
ドライン安保以降、新たな動きをしてきてい
ます。日米共同演習が年間スケジュールのな
かに入り込んできて、呉の海自も二月であれ
ばチームスピリットに関連した日米共同掃海
演習であるとか、七月の下旬には宗谷海峡や
対馬海峡の海峡封鎖を想定した演習が行われ
るとか、そういうことが日常的にやられるよ
うになっています。米軍弾薬庫からの韓国へ
の弾薬輸送もチームスピリットが始まってか
ら二月ごろ行われているようです。

そういう動きに問題提起をしておかねばな
らないということは原則として持ちつつけて
いますが、一番気になるのは、核艦船を中心
として被爆県の中にある町が核にまみれてい
るという状況で、そこにこだわらない限り、
広島や呉での反核運動は本物にならないんじ
やないかということです。そこを最大の柱に
して運動を進めていこうと思っています。

実は今、呉に三隻のアメリカ艦船がいます。



七月九日から昨日にかけて、横須賀を母港に
しているオルデンドルフとカーク、そしてサ
ンディエゴが母港だと思っただけですがメイヤー
フォードというフリゲート艦、この三隻が呉
に入りました。オルデンドルフはトマホーク
の搭載予定艦の中に入っています。こうした
事実を私たちがどう受け止めて運動を進めて
いかなければならないのか、ということが今
一番問われているんじゃないかと思っています。
このあと八月三日・五日にブルーリッジが来

るといわれています。

関連して最近五年間に呉に米艦船のリ
ストを作ってみました。リストを見れば一目
瞭然なんです、米艦船が呉にやって来る場
合はほとんど七月の下旬から八月の月上旬に集
中しているわけです。米軍の側も被爆県とい
うことを意識しているとは思えないわけで、
そうだとすれば、七月、八月に毎年のように
反復して核搭載艦船が入りつつけている状況
は、それによって反核の世論がつぶされてい
くのか、それとも寄港を一つのステップにし
ながら僕等の側が次の寄港に対しては前回よ
りも大きな反核の世論を作っていけるのかと
いうことが問われているんじゃないか。そう
いう意味で非常に大きかったのは、去年の八
月にメリルが呉に入った問題だと思っています。

メリルは核トマホーク真つ黒艦であるわけ
で、正直言って私たちは直前まで本当に入
るなんて思ってもいなかったんですが、それが
強引に入ってくることによって、ある意味で
は私たちの動きが以前よりだんだん広がって
きたことを感じています。たとえばそれまで
のアスロック艦に対する私たちの行動は、ほ
とんど新聞を見て入ったというのを知って、
次の日あたり一生懸命文書を作って呉市役所
に申し入れをするというのがヤットコサット

コだったんですが、メリルの行動を通して、かなり事前に情報をつかめる体制が出来てきて、当日の朝、少数であっても抗議に行くことが少しずつ可能になった。それから呉に入る核艦船問題について、広島県や広島市に対する交渉を広島市のグループと呉のグループが一緒になってやっていける体制が出来てきています。

とはいえ既成事実を積み重ねられている現実はあるわけですし、そのことに対してなんとかしなくてはという思いがあつて、デモとか抗議とか市役所に直接おむくことが出来ない人でも、なにがしかの意志表示が出来るような手段を作っていかなければいけないという発想から、呉市長に核の有無をチェックして核がないことがわからない限り呉港には入れないでほしいという要請ハガキを出す運動の話が持ち上がりました。

具体化したのは、今年の「海の軍備撤廃をめざす国際ウィークエンド」からで、とりあえず一万枚のハガキを刷りました。この運動についてはマスコミもふくめて、反応が良かったと思います。呉の場合、高教組とか広教組がそれなりの対応してくれ、数千枚のスケールで一気にハガキがなくなつて、もう一万枚刷りました。

呉に入ってくる核艦船の問題を広島県内の人々が自分の頭の中で問題視していく状況を作っていくために、首都圏の非核コードや反

山石国 ホーネット飛来に抗議

田村俊郎(岩国基地監視連絡会)

岩国での運動状況と米軍基地の動きについて報告します。

市民運動はあまりなくて、市教組や県評・社会党、共産党・平和委員会が事故の時に申し入れや抗議行動をするぐらいです。私たち岩国基地監視連絡会も、以前は監視行動をやったり、少人数のデモをやったりしたんですが、現在、監視行動は僕がやったり市職員組合がやったり、といった状態です。

基地の状況について言えば、明日十二時にFA一八ホーネットが十二機やってきます。これに対して県評と地区労の抗議行動があつて、月曜日にはここに参加した人々で抗議を行います。米軍への「思いやり予算」について話せば、米軍専用の橋の工事に九億円、米軍住宅が一棟で十五億円といった金額になっています。この工事にたずさわる日本人労働者の給与負担もあります。

核ホットラインの運動も参考にして運動の方向をさぐっていきたいと思っています。

基地の沖合移設の問題も持ち上がっています。はじめは試験的に埋め立てる予定で、今埋め立て用のダンプが通る道を作っています。事故は新聞で御存じのように、輸送機が着陸に失敗したりファントムがスパロミサイルを落としたり、といった事態が続いています。また監視をしていたら、輸送機同士が一分間隔で降りて衝突しそうになるとか、前にPS1が弾薬庫の近くに落ちたんですが、PS1を改造したUS1がまた最近弾薬庫の近くで旋回したりして、失速したら弾薬庫に落ちる危険がある、という状況もあります。それから米兵の犯罪が毎年のようにあるんですが、最近では飲酒運転で高校生をひき殺す事件がありました。

一九八九年から九一年に高性能弾薬庫を建設する予定であることも報道されています。

南太平洋の

「カリブ化」

「表題は編集部」

「フィジー・クーデターにおけるアメリカの関与」(『ウエリントン・コンフィデンシャル』No.36)より

この六年あまり、フィジーはアメリカにとって南太平洋における最も強力な「育成」のターゲットであった。それに抗してフィジーは首尾よく非同盟、非核を志向する政府を選出したのである(注1)。この六年間のアメリカの介入には主に三つの側面がある。

1) 政治的支援

マラと同盟党(注2)の育成と支援は資金援助、ホワイト・ハウスによる要請が選挙運動と結び付いて行われた。これはアメリカがいくつかのラテン・アメリカの独裁政権に対して行ったこととそれほど違わない。

2) 軍事的支援

将校間の人的交流と軍事資金援助によるフ

四月十二日に核艦船拒否を打出した労働党政権の誕生、五月十四日にそれをくつがえす軍事クーデター、とめまぐるしく動いたフィジーでは、いまなお銃剣でねじ曲げられたまま非常事態が続いている。抵抗は長期化するだろう。結果的には、すべてがアメリカに有利に進行している。

「反トマ通信」七月号(N.22)で、フィジー・クーデターの背後にある諸問題を知るために、フィジーの仲間からのものを含めて三つの手紙を紹介した。その後、「アメリカの関与」について集中した調査が行われたが、「ウエリントン・コンフィデンシャル」誌は「フィジー政変におけるアメリカの関与」と題する詳細な分析論文をのせた。(36号、八七年六月)。ここでは、その最終章の「まとめ」を全訳した。全文(英文)を希望の方はお申し出ください。なお、ほぼ同じ内容のダイジェスト版が『ピースリンク』誌にオーエン・ウィルクス名で出ており、次号の『パシフィカ』(反核パシフィック・センター)に訳出されるとのことですので、あわせて御参照ください。(編集部)

この六年あまり、フィジーはアメリカにと

って南太平洋における最も強力な「育成」の

ターゲットであった。それに抗してフィジー

は首尾よく非同盟、非核を志向する政府を選

出したのである(注1)。この六年間のアメ

リカの介入には主に三つの側面がある。

1) 政治的支援

マラと同盟党(注2)の育成と支援は資金

援助、ホワイト・ハウスによる要請が選挙運

動と結び付いて行われた。これはアメリカが

いくつかのラテン・アメリカの独裁政権に対

して行ったこととそれほど違わない。

2) 軍事的支援

将校間の人的交流と軍事資金援助によるフ

(1) 八七年四月総選挙によるパンドラ労働党・国民連合選挙連合政権の誕生。

労働党・国民連合選挙連合政権の誕生。

(2) 七〇年の独立以来十七年間政権をにぎっていた保守政党、カミセセ・マラはその党首で首相。

(3) 太平洋陸軍経管セミナー。ハワイの米陸軍西部方面司令部によって組織された太平洋・インド洋諸国の陸軍幹部の交流・養成セミナー。今回の政変の指導者シンブンカ中佐も八一年に出席している。

3) 労働組合の転覆

アメリカ政府が資金を与え、指導している AFL-CIO (国際自由労連) による労働組合の転覆。これは規模こそはるかに小さいものの、特にフィリップ・アギーがドキュメントしているように CIA の何年にもわたるラテン・アメリカでの活動に非常によく似ている。LCPA (注4) と AFL-CIO (注5) 設立を援助したモリス・バラディーノは AFL-CIO の手本となった「全米地域労働機構 (ORIT)」を牛耳る CIA の要員であることが当初から暴露されていた。スヴァ (注6) AFL-CIO 事務所を設立し、運営してい

●アメリカはクーデターにどの程度関与したか？

今回の選挙に先立つ六年間のアメリカのフィジーへの介入は全て十分に証拠があり、疑いの余地はない。よくいわれるタウケイ運動 (注7) へのアメリカの資金援助については例外的に証拠はないがまず間違いない。しかし、現在のところ、アメリカがクーデターに手を下したと決定的に証拠だててゐる材料は得られていない。

クーデターの手口が見るからに完ぺきであったということは一つの重要な手掛りだ。オーストラリアやニュージーランドなどフィジーの隣国でクーデターが準備されていること

たバレンタイン・スアゾはチリで CIA による政権転覆に関与していた証拠がある。総じて、この六年間アメリカがやってきたことは「南太平洋のラテン・アメリカ化」、あるいは島々と海からなるこの地域の特質によりそくして言えば「カリブ化」と名付けることができるだろう。

フィジーのクーデターはこの「カリブ化」の最初の成果だといえよう。すなわち、アメリカの要求に対して、かつてマラ民主主義がそうであったよりも同調的なカリブ式独裁政権が誕生したのである。

さらに法と秩序の維持に著しく成功した。少なくともアメリカ政府の誰かが彼にやらなければならぬことのリストを与えたことは間違いない。

●ウォルターズの陽動作戦

ヴァーノン・ウォルターズ (注9) の役割はたんに状況を評価し、陽動し、最終的にアメリカの関与にゴー・サインを出しただけだったと思われる。彼が、まさに展開されようとしているこのドラマのフィジー人の登場人物たちに、誰が、どのように、何時、どこでといった事柄まで実際に指示を与えていたと考えるのは難しい。もしウォルターズがシナリオを書いたのなら、彼のフィジー訪問が記憶から無くなるのに十分な期間を置いてから事が始まるような筋書きにしたであろう。しかし、明らかにようにクーデターは、まずいことに彼の訪問の直後に起こった。

一方では、クーデター劇をもりたてるために仕組まれたことが一見して明白な事件がいくつもあった。これらを見るとアメリカがただ何人かの舞台係を派遣しただけでは無いことをうかがい知る事ができる。それは：

* ライアン海軍大将のシドニーでの記者会見 (注10)。

* オーストラリア外相ビル・ヘイドンのニュージーランド訪問のオハキ空軍基地訪問 (注11)。

ればならないことのリストを与えたことは間違いない。

* 英国国防長官サー・ジェフリー・ハウの「リビア叩き」のためのニュージーランド訪問 (注12)。

* バヌアツでのリビア人「発見」 (注13)。
* 明らかに CIA に指図されたタウケイ行進と放火活動

* PDU (太平洋民主同盟) の会合マラのアリバイ (注14)。

結論として筆者らはアメリカは政変に関与したと判断する。ランブカは多分、適当な政変の担い手としてアメリカにスカウトされたのであろう。マラはアメリカと十分なコネクションを持つており、彼の側からアメリカ政府の支援を求めたか、あるいはアメリカが支援を申し出たのである。

すべての話からアメリカの作戦を指揮し、あるいは、少なくともその窓口となったのはウィリアム・ボウブ (注15) である。世界反共連盟の指導者でありラン・コントラ事件にも顔をのぞかせたジョン・シングロウブ (注16) が関与したとすれば、この政変がアメリカのインシテティブでアメリカによって (注17) (注18) (注19) (注20) (注21) (注22) (注23) (注24) (注25) (注26) (注27) (注28) (注29) (注30) (注31) (注32) (注33) (注34) (注35) (注36) (注37) (注38) (注39) (注40) (注41) (注42) (注43) (注44) (注45) (注46) (注47) (注48) (注49) (注50) (注51) (注52) (注53) (注54) (注55) (注56) (注57) (注58) (注59) (注60) (注61) (注62) (注63) (注64) (注65) (注66) (注67) (注68) (注69) (注70) (注71) (注72) (注73) (注74) (注75) (注76) (注77) (注78) (注79) (注80) (注81) (注82) (注83) (注84) (注85) (注86) (注87) (注88) (注89) (注90) (注91) (注92) (注93) (注94) (注95) (注96) (注97) (注98) (注99) (注100) (注101) (注102) (注103) (注104) (注105) (注106) (注107) (注108) (注109) (注110) (注111) (注112) (注113) (注114) (注115) (注116) (注117) (注118) (注119) (注120) (注121) (注122) (注123) (注124) (注125) (注126) (注127) (注128) (注129) (注130) (注131) (注132) (注133) (注134) (注135) (注136) (注137) (注138) (注139) (注140) (注141) (注142) (注143) (注144) (注145) (注146) (注147) (注148) (注149) (注150) (注151) (注152) (注153) (注154) (注155) (注156) (注157) (注158) (注159) (注160) (注161) (注162) (注163) (注164) (注165) (注166) (注167) (注168) (注169) (注170) (注171) (注172) (注173) (注174) (注175) (注176) (注177) (注178) (注179) (注180) (注181) (注182) (注183) (注184) (注185) (注186) (注187) (注188) (注189) (注190) (注191) (注192) (注193) (注194) (注195) (注196) (注197) (注198) (注199) (注200) (注201) (注202) (注203) (注204) (注205) (注206) (注207) (注208) (注209) (注210) (注211) (注212) (注213) (注214) (注215) (注216) (注217) (注218) (注219) (注220) (注221) (注222) (注223) (注224) (注225) (注226) (注227) (注228) (注229) (注230) (注231) (注232) (注233) (注234) (注235) (注236) (注237) (注238) (注239) (注240) (注241) (注242) (注243) (注244) (注245) (注246) (注247) (注248) (注249) (注250) (注251) (注252) (注253) (注254) (注255) (注256) (注257) (注258) (注259) (注260) (注261) (注262) (注263) (注264) (注265) (注266) (注267) (注268) (注269) (注270) (注271) (注272) (注273) (注274) (注275) (注276) (注277) (注278) (注279) (注280) (注281) (注282) (注283) (注284) (注285) (注286) (注287) (注288) (注289) (注290) (注291) (注292) (注293) (注294) (注295) (注296) (注297) (注298) (注299) (注300) (注301) (注302) (注303) (注304) (注305) (注306) (注307) (注308) (注309) (注310) (注311) (注312) (注313) (注314) (注315) (注316) (注317) (注318) (注319) (注320) (注321) (注322) (注323) (注324) (注325) (注326) (注327) (注328) (注329) (注330) (注331) (注332) (注333) (注334) (注335) (注336) (注337) (注338) (注339) (注340) (注341) (注342) (注343) (注344) (注345) (注346) (注347) (注348) (注349) (注350) (注351) (注352) (注353) (注354) (注355) (注356) (注357) (注358) (注359) (注360) (注361) (注362) (注363) (注364) (注365) (注366) (注367) (注368) (注369) (注370) (注371) (注372) (注373) (注374) (注375) (注376) (注377) (注378) (注379) (注380) (注381) (注382) (注383) (注384) (注385) (注386) (注387) (注388) (注389) (注390) (注391) (注392) (注393) (注394) (注395) (注396) (注397) (注398) (注399) (注400) (注401) (注402) (注403) (注404) (注405) (注406) (注407) (注408) (注409) (注410) (注411) (注412) (注413) (注414) (注415) (注416) (注417) (注418) (注419) (注420) (注421) (注422) (注423) (注424) (注425) (注426) (注427) (注428) (注429) (注430) (注431) (注432) (注433) (注434) (注435) (注436) (注437) (注438) (注439) (注440) (注441) (注442) (注443) (注444) (注445) (注446) (注447) (注448) (注449) (注450) (注451) (注452) (注453) (注454) (注455) (注456) (注457) (注458) (注459) (注460) (注461) (注462) (注463) (注464) (注465) (注466) (注467) (注468) (注469) (注470) (注471) (注472) (注473) (注474) (注475) (注476) (注477) (注478) (注479) (注480) (注481) (注482) (注483) (注484) (注485) (注486) (注487) (注488) (注489) (注490) (注491) (注492) (注493) (注494) (注495) (注496) (注497) (注498) (注499) (注500) (注501) (注502) (注503) (注504) (注505) (注506) (注507) (注508) (注509) (注510) (注511) (注512) (注513) (注514) (注515) (注516) (注517) (注518) (注519) (注520) (注521) (注522) (注523) (注524) (注525) (注526) (注527) (注528) (注529) (注530) (注531) (注532) (注533) (注534) (注535) (注536) (注537) (注538) (注539) (注540) (注541) (注542) (注543) (注544) (注545) (注546) (注547) (注548) (注549) (注550) (注551) (注552) (注553) (注554) (注555) (注556) (注557) (注558) (注559) (注560) (注561) (注562) (注563) (注564) (注565) (注566) (注567) (注568) (注569) (注570) (注571) (注572) (注573) (注574) (注575) (注576) (注577) (注578) (注579) (注580) (注581) (注582) (注583) (注584) (注585) (注586) (注587) (注588) (注589) (注590) (注591) (注592) (注593) (注594) (注595) (注596) (注597) (注598) (注599) (注600) (注601) (注602) (注603) (注604) (注605) (注606) (注607) (注608) (注609) (注610) (注611) (注612) (注613) (注614) (注615) (注616) (注617) (注618) (注619) (注620) (注621) (注622) (注623) (注624) (注625) (注626) (注627) (注628) (注629) (注630) (注631) (注632) (注633) (注634) (注635) (注636) (注637) (注638) (注639) (注640) (注641) (注642) (注643) (注644) (注645) (注646) (注647) (注648) (注649) (注650) (注651) (注652) (注653) (注654) (注655) (注656) (注657) (注658) (注659) (注660) (注661) (注662) (注663) (注664) (注665) (注666) (注667) (注668) (注669) (注670) (注671) (注672) (注673) (注674) (注675) (注676) (注677) (注678) (注679) (注680) (注681) (注682) (注683) (注684) (注685) (注686) (注687) (注688) (注689) (注690) (注691) (注692) (注693) (注694) (注695) (注696) (注697) (注698) (注699) (注700) (注701) (注702) (注703) (注704) (注705) (注706) (注707) (注708) (注709) (注710) (注711) (注712) (注713) (注714) (注715) (注716) (注717) (注718) (注719) (注720) (注721) (注722) (注723) (注724) (注725) (注726) (注727) (注728) (注729) (注730) (注731) (注732) (注733) (注734) (注735) (注736) (注737) (注738) (注739) (注740) (注741) (注742) (注743) (注744) (注745) (注746) (注747) (注748) (注749) (注750) (注751) (注752) (注753) (注754) (注755) (注756) (注757) (注758) (注759) (注760) (注761) (注762) (注763) (注764) (注765) (注766) (注767) (注768) (注769) (注770) (注771) (注772) (注773) (注774) (注775) (注776) (注777) (注778) (注779) (注780) (注781) (注782) (注783) (注784) (注785) (注786) (注787) (注788) (注789) (注790) (注791) (注792) (注793) (注794) (注795) (注796) (注797) (注798) (注799) (注800) (注801) (注802) (注803) (注804) (注805) (注806) (注807) (注808) (注809) (注810) (注811) (注812) (注813) (注814) (注815) (注816) (注817) (注818) (注819) (注820) (注821) (注822) (注823) (注824) (注825) (注826) (注827) (注828) (注829) (注830) (注831) (注832) (注833) (注834) (注835) (注836) (注837) (注838) (注839) (注840) (注841) (注842) (注843) (注844) (注845) (注846) (注847) (注848) (注849) (注850) (注851) (注852) (注853) (注854) (注855) (注856) (注857) (注858) (注859) (注860) (注861) (注862) (注863) (注864) (注865) (注866) (注867) (注868) (注869) (注870) (注871) (注872) (注873) (注874) (注875) (注876) (注877) (注878) (注879) (注880) (注881) (注882) (注883) (注884) (注885) (注886) (注887) (注888) (注889) (注890) (注891) (注892) (注893) (注894) (注895) (注896) (注897) (注898) (注899) (注900) (注901) (注902) (注903) (注904) (注905) (注906) (注907) (注908) (注909) (注910) (注911) (注912) (注913) (注914) (注915) (注916) (注917) (注918) (注919) (注920) (注921) (注922) (注923) (注924) (注925) (注926) (注927) (注928) (注929) (注930) (注931) (注932) (注933) (注934) (注935) (注936) (注937) (注938) (注939) (注940) (注941) (注942) (注943) (注944) (注945) (注946) (注947) (注948) (注949) (注950) (注951) (注952) (注953) (注954) (注955) (注956) (注957) (注958) (注959) (注960) (注961) (注962) (注963) (注964) (注965) (注966) (注967) (注968) (注969) (注970) (注971) (注972) (注973) (注974) (注975) (注976) (注977) (注978) (注979) (注980) (注981) (注982) (注983) (注984) (注985) (注986) (注987) (注988) (注989) (注990) (注991) (注992) (注993) (注994) (注995) (注996) (注997) (注998) (注999) (注1000)

(4) 太平洋同盟労働者委員会、八三年に国際自由労連によって作られた右派労働運動家の国際組織、アメリカ、オーストラリア、ニュージーランド、フィジーなどが参加。

(5) アジア・アメリカ自由労働協会、フィジーでは七〇年代初期から活動していたが八四年に首都スヴァに事務所を開設、活動化した。

(6) フィジーの首都。

(7) 「フィジー人のためのフィジー」を唱えて結成された起った暴力的な抗議集会、バリケード封鎖、放火などの運動。

(8) シティベニ・ランブカ中佐、クーデターの指導者、最近大佐に昇進。

(9) 米国連大使、中東、中米問題などでタカ派として名を馳せた。クーデター直前にオーストラリア、バブアニューギニア、ソロモン群島、西サモア、トンガを経てフィジーを訪問。表向きは目的は国連軍の中東派遣に関する協議であった。

(10) ライアン米太平洋艦隊統合司令官、はここで南太平洋でのリビア人の活動に対して海軍力行使すると威嚇した。

(11) ウォルターズ大使のオーストラリア訪問の数日後、ヘイドン外相はニュージーランドのオハキ空軍基地に飛びロンギ首相とリビア問題を協議した。

(12) 彼は「リビアの脅威」を理由に非核法制化に圧力をかけた。

(13) バヌアツには二人のリビア人ビジネスマンが滞在していたがウォルターズ大使のシークレット・サービスは彼等をスパイであると摘発した。

(14) アメリカが支援する太平洋の右派政党の連絡体。クーデター当日はスヴァから離れた場所でも PDU の会議が開かれており、マラ前首相は議長の人であった。

(15) 非軍事援助を管理するために駐フィジー大使館内に置かれた南太平洋地域事務所の実任者。おそらく CIA の要員。

反核ホット ライン だより

反核ホットラインをしき、原子力軍艦の入港情報テレホンサービスを始めて二ヶ月になります。

原子力艦入港情報テレホンサービス

テレホンサービス聞いていますか。

●名古屋の参加者から、「名古屋でテレホンサービスを聞くのはどうすればよいか」という問い合わせがありました。残念ながら、現状では東京を中心とした四〇km圏でしかテレホンサービスを聞けません。

その分、首都圏の方々のがんばりに期待しています。

●テレホンサービスについては、「ブッシュホンでないに聞けないのに抵抗を感じる」という意見が少なからずありました。ワープロやコンピュータへの批判と同じであろうと思います。なかなかむずかしい実践的課題です。とりあえず現状では、私たちには独自の

テレホンサービス回線を持つお金がなく、N T Tの伝言ダイヤル・サービスを使っています。そのため、ブッシュホンでなければ聞き出せないと言う不本意な状態になっています。

●テレホンサービスは午後五時を過ぎると非常に混んでなかなかつながりません。多くの人々が待ち合わせなどのために伝言ダイヤル・サービスを使い始めるからです。午前十時と午後四時の利用をおすすめします。

●テレホンサービスは情報をインプットしてから八時間で自動的に情報は消えます。二四時間情報を持続させるためには、一日に三回インプットしなければならぬ勘定です。それだけ費用もかさみます。そこで現在は、特に重要な情報がない限りインプットは一日一回、おおむね午前九時半と十時にすることにしています。従って、もし午後五時半以後に電話して「連絡番号が登録されていません」と反応された時には、重要情報はなかったものと御理解下さい。

反核ホットラインの加入者を募る！

ホットライン参加者を募っています。この数が増えてゆくことが、日本で核艦船を拒否する力が強くなる一つのバロメーターであると思います。ぜひ声をかけ合って参加者を増やして下さい。

●ホットライン参加者のしなければならぬことは極めて簡単です。三連はがきをトマホーク搭載疑惑艦が横須賀ないし佐世保に入港したときに出していただければよいのです。入港したという情報はセンターから連絡します。

●参加の申し込みはどのような形でも結構です。「ホットライン参加」と明記下さい。通信・資料費として年間二千元が必要です。こちらからは、核の有無の判断基準になる「非核コード」、三連はがきセットなどをお送りします。

入港情報

6・18・18・17

6・22 原子力潜水艦パーミット（スレッシャー級）、午後3時、横須賀に入港。

7・3 パーミット、午前10時、横須賀を出港。

7・3 原子力潜水艦ホークビル（スタージョン級）、午後3時、横須賀に入港。

7・7 ホークビル、午前10時、横須賀を出港。

7・10 駆逐艦オルデンドーフ（スプルーアンス級）、呉に入港。

7・11 フリゲート艦カーク（ノックス級）、呉に入港。

7・11 原子力潜水艦ボーツマス（ロサンゼルス級）、正午、横須賀に入港。

（裏面につづく）

原子力艦入港情報 テレホンサービス

ブッシュホンで、まず **井8301**、そして連絡番号 **968・1071**、次に暗番号 **1071**
クロハ イレナイ イレナイ

(表面からつづく)

7・12 オルデンドーフ、カーク、呉を出港。
7・12 ポーツマス、午前10時、横須賀を出港。

7・14 ポーツマス、午前7時、ホワイトビーチ(沖繩)に入港。午前7時半に出港。

7・15 ポーツマス、ホワイトビーチに入港、30分後に出港。

7・16 原子力潜水艦バツファロー(ロサンゼルス級)、正午、横須賀に入港。

8・3 バツファロー、午前10時、横須賀を出港。

8・5 バツファロー、午後1時、ホワイトビーチに入港。午後2時に出港。

8・10 バツファロー、午前10時、ホワイトビーチに入港。10時半に出港。

※8月18日現在で各港への原子力艦入港回数は、横須賀

佐世保 14回(うち原潜14回)
3回(うち原潜2回)
7回(うち原潜7回)
24回(うち原潜23回)

計

※佐世保の軍研の佐々木竹一さんの分析によれば原子力艦入港状況に関して次の二点が重要。①ホワイトビーチへの入港が急増。復帰後の最高記録は72年の年7回。今年はすでに、タイ記録である。②原潜中ではトマホーク搭載予定艦の比率が急増。今年と昨年の上半期を比較すると、両方とも三港で計16回だったが、うちトマホーク搭載予定艦は、昨年8回に対して今年は何と15回である。



重要な国際会議が続く

●北大西洋ネットワーク(NAN)の第五回年次総会が9月17、20日、アイルランドのギャルウェイで開かれる。今年のテーマは「非核の海を実現する」。NANは一九八三年にできた北大西洋、ノルウェー海、バルチック海に面した国々の反核運動のネットワークで、五月の「海の軍備撤廃のための週末」で私的にも国際共同行動をとりにしてきた仲間たちの催しには、全体会議、多彩なワークショップ、オイスター祭り(詩、絵画、映画、演劇などのアイルランド文化とビルとオイスター)がある。中学生のための一連の特別セッションもある。来年の国際共同行動をどうするかについても議論される。

●第五回非核独立太平洋会議が11月4、14日、フィリピンのマニラで開かれる。このうち4、7日は先住民だけの会議であり、8、14日が非先住民も含めた会議になる。今年のテーマは「太平洋民衆の自決と平和のための闘いの前進のために」。フィジー、ペラウ、カナキー、東チモールなど、激動する太平洋の現状の中で、重要な会議になるだろう。なお、反トマ運動が参加している「海の軍備撤廃を

「太平洋運動」は、大きくは、この非核独立太平洋運動のもとにあり、太平洋の軍事化の問題について自発的で、かつ排他的ではないイニシアチブを発揮しているネットワークである。

三宅島の島民ががんばれ

●呉市で開かれた反トマ全国運動の会議で採択された「三宅島へのNLP基地建設のための観測施設建設強行に反対する緊急抗議声明」は、7月12日付で防衛庁長官と防衛施設庁長官に、8月12日付で環境庁長官に発送された。●トマホーク阻止京都連絡会では、8月6、9日、四条河原町の高島屋前で座り込みをしながら「三宅島への米軍NLP基地建設を許さない」署名(防衛施設庁長官、防衛庁長官、内閣総理大臣あて)を集めた。全国にも呼びかけ、8月末にむけて集約をいそいでいる。連絡先「京都市中京区六角通室町西入ル玉蔵町一二七吉田方、〇七五(二五五)一二六一」●三宅島アクションポートは、防衛施設庁、環境庁、官民共用空港の誘致及び建設に反対する会に出す抗議と激励の三連ハガキ運動を呼びかけている。連絡先「東京都渋谷区代々木一〇一四境ビル3F日本はこれだいか市民連合・アクションポート係、〇三(三七九)〇〇四三」●日本山妙法寺平和行進団は8月26、30日の五日間、午前九時、午後五時「三宅島に基地はいらない」と訴えて祈念しながら防衛庁の回りを百回まわる行進をする。多くの人々の参加を呼びかけている。

ベラウ、波高し

ベラウ共和国でも緊迫した状況が続いている。八月四日、はじめて憲法を改悪する国民投票が強行された。ベラウの憲法が「国民投票で四分の三以上の同意がなければ領内での核兵器などの使用・実験・貯蔵・廃棄・がでない」と規定している部分を「過半数以上の同意がなければ……」に改悪し、核艦船寄港を認めさせる自由連合協定の承認を容易にしようという企てである。この憲法改訂は、国民の過半数の支持と州の四分の三が過半数の

支持を得る、ことによって成立する。投票結果では、憲法改悪が成立したもようである。しかし、この投票そのものが違憲であるとい訴訟が最高裁に持ち込まれており、事態は予断を許さない。サリイ政権は、改悪された憲法にもとづいて、自由連合協定をめぐる六度目（実は九度目）の国民投票を八月二十一日に行うと予告している。

会計報告

(87.7.6~8.6)

〔収入〕

○前月からの繰越	113,950
○会費収入	61,000
内訳	
維持会員	24,000
参加個人	15,000
通信会員	22,000
○カンパ	32,000
○在庫品売上げ	6,600
○反核ホットライン	46,075

(会費、パンフ売上げなど)

<計> 259,625

〔支出〕

●家賃（8月分）	40,000
●電話代	820
●郵送費	44,940
●印刷費	6,200
●手数料（郵便振替）	1,040
●反核ホットライン経費	31,000
●次月への繰越	135,625

<計> 259,625

編集者から

うだるような残暑が続く毎日です。みなさんお元気でお過ごしでしょうか？

四十二回目の夏を迎えた広島で、長崎であるいはそれぞれの場所で、私たちの仲間も力一杯、反核・平和の創意あふれる行動を展開しました。次号では広島・長崎からの現地レポートを中心にそれらの動きをお伝えします。お楽しみに。

(た)

(11ページから)

引起こされたプロジェクトであったと考えられる。もしシングロウプがいなかったとしてもなお、アメリカからは相当の支援がなされたと考えられる。

(訳 田巻一彦)

月刊反トマホーク通信 No 22

*発行 一九八七年八月二〇日発行
トマホークの配備を許すな全国運動

(東京都渋谷区渋谷三二五一九パル

青山五〇二 トマ喰い虫社

☎〇三(四九八)六〇九五

*編集 反トマホーク通信編集委員会

*定価 一〇〇円(通信会員年間一〇〇〇円)